

## II 研究の構想と組織

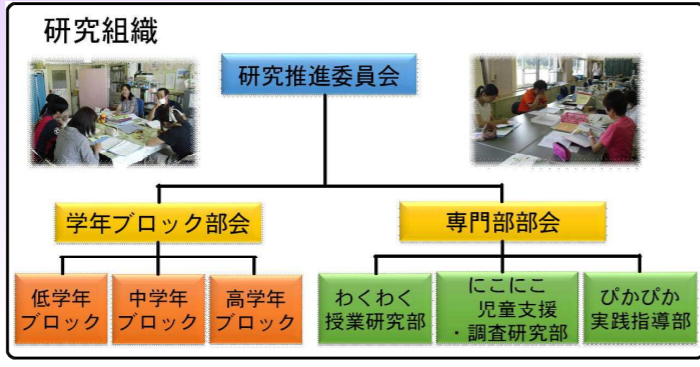
本研究は、学校研究課題「確かな学力を身に付け、心豊かにたくましい長井っ子の育成」は、「生きる力」の3つの要素である「知」「徳」「体」をバランスよく育成していこうとするものである。

人権教育は、「生きる力」を育む教育活動の基盤として、各教科等や教科外活動の特質を踏まえ、教育活動全体を通して推進していく。

研究主題は、「知」「徳」の要素を重視した「確かな学力を身に付けた心豊かな児童の育成」とし、さらに、「自他の大切さを認め、互いに高め合う児童を目指して」というサブテーマを設定した。

研究主題の「確かな学力を身に付けた児童」「心豊かな児童」の育成には、「⑦自他の大切さを認める」とこと、「①互いに高め合う」ことの両面がどちらも大切であると考えたからである。

上記の2つの観点「⑦自他の大切さを認める観点」「①互いに高め合う観点」から、研究主題について迫っていくようにした。



**本校の実態**

- 本校の児童は、明るく元気で、意欲的に取り組む。
- 自分の思いを伝えることが苦手で、人とかかわり方は不得手である。
- 意識調査等によると、人前での発言や自らの考えをノートに的確に表現する力が不十分である。

**必要な支援**

- 基礎的・基本的な学習内容を確実に定着させること。
- 自ら考える場と他者と話し合う場を意図的に設定すること。
- 同学年だけでなく、異学年の児童とも交流する機会を設定すること。

人権意識の向上

## III 研究の仮説と具体的方策

### 具体的方策

**仮説①**  
**【⑦ 自他の大切さを認める観点】から**  
 ・自分と自分以外の人の大切さに気づき、互いを認められるような場を工夫することで、人権感覚や人権意識を高めることができるであろう。

**仮説②**  
**【① 互いに高め合う観点】から**  
 ・尊重し合う人間関係づくりや環境づくりを行うことで、互いに心豊かな人間性が育まれるであろう。

**《自分自身を高めるために》から**  
 ・「熊谷の子どもたちは、これができます！『4つの実践』と『3減運動』」の推進  
 ・家庭での学習習慣の確立  
 ・発表の仕方の掲示  
 ・長井小「9つの取組」の実践 等

**《基本的な生活習慣の確立》から**  
 ・元気なあいさつ、ハイタッチ活動  
 ・はきものそろえ  
 ・いじめゼロ宣言  
 ・人権の木  
 ・記名の習慣、名札つけ  
 ・ありがとうメッセージ  
 ・静かなろうか歩行

**《尊重し合う人間関係づくり》から**  
 ・長井っ子タイム（学級・学年・たてわりグループ）の活用  
 ・4人4花栽培  
 ・道徳の見える化  
 ・一人一人が主役となる場の設定  
 ・仲間意識や連帯感、人権尊重の精神

**《環境(物的・人的・言語)の整備充実》から**  
 ・クリーンながい、ながいっ子清掃（たてわり清掃）  
 ・ふわふわ言葉の実践  
 ・「じんけんロード」「折り鶴のあるろう下」の整備  
 ・相手に「さん」をつけて呼ぶ

**《授業の充実》**

**授業前半の方策**  
 ◎見通しを持たせる場面と自ら考える場面を設定  
 ・科学的な見方・考え方  
 ・多面的、多角的な見方・考え方をのばす。

**授業後半の方策**  
 ◎話し合う場面（グループ・全体）の設定  
 ・相手に分かる説明の仕方の実践  
 ・他者の考えを取り入れながら自分で判断したり決定したりする力を養う。  
 ・感動する心を育てる。



**人権意識を高揚させる家庭との連携**

- 家庭学習の充実（授業とタイアップした家庭学習プリントの活用）
- 保護者への啓発「人権日めぐり」、「人権教育だより（つなぐ）」の発行



### 人権意識を高める本校の教育

(本校の人権教育上の視点  
 ~各学年の「内容」と「評価規準」、各教科の人権教育上の視点~)

### 本校の目指す児童像と身に付けたい力

#### 本校の目指す児童像

自分や友だちのよさを認め合い、正しく判断・行動できる子  
**A** 自分の思いをきちんと伝えられるとともに、友だちのよさを認める子  
**I** 正しく判断し、行動に移せる子



人権感覚育成のための視点について、2観点14項目に整理しました。

|     |  |
|-----|--|
| 低学年 | <b>A</b> 話をよく聞き、思ったことが言える子<br><b>I</b> 友だちと仲よくできる子           |
| 中学年 | <b>A</b> よく考え、正しいと思ったことが行動できる子<br><b>I</b> 友だちのよさがわかり、認め合える子 |
| 高学年 | <b>A</b> 正しく判断し、公正に行動できる子<br><b>I</b> 互いのよさを認め、高め合える子        |

人権感覚育成のための視点(普遍的な課題)

| 観点           | 視点           | 内容   | 低学         |
|--------------|--------------|--|------------|
| A 自他の大切さを認める | 1 差別偏見の解消    | 差別や偏見に気づき、見抜き、なくしていくことができる。                  | だれとでも      |
|              | 2 科学的な見方・考え方 | 正しい見方や判断・理解をし、科学的に考えることができる。                 | 自分の目や判断を   |
|              | 3 自立意識       | 正しいことを主張でき、粘り強く努力することができる。                   | 様々なことを感じる。 |
|              | 4 豊かな感性・敬虔   | 美しいものや崇高なものに感動する豊                            | 美しいもの      |
| I 互いに高め合う    | 徳性の養育        | い人間として尊重しようとする。                              | 慮できる。      |
|              | 2 共感と連帯感     | 他者の立場や思いに興味・関心をよせ、仲間同士として共通の目的をめざして努力しようとする。 | 友だちの言生活しよう |
|              | 3 奉仕・勤労観     | 公共のために尽くし、進んで働くこと                            | クラスのた      |

### 研究主題に迫るための人権教育(2観点・14項目)の観点

| A 自他の大切さを認める観点 |               | I 互いに高め合う観点   |  |
|----------------|---------------|---------------|--|
| 1 差別偏見の解消      | 6 自己尊重の感情     | 1 人間の尊厳・価値の尊重 |  |
| 2 科学的な見方・考え方   | 7 公平・公正       | 2 共感と連帯感      |  |
| 3 自立意識         | 8 コミュニケーション能力 | 3 奉仕・勤労観      |  |
| 4 豊かな感性・敬虔     | 9 権力と責任       | 4 多様性の尊重・共生   |  |
| 5 生命尊重         |               | 5 参加・参画       |  |



各教科・領域で重点的に指導したい「人権教育上の視点」

内容のまとめりごとの評価規準設定例

| 内容(人権課題)                                 | 知識(知)       | 価値(価値) |
|--|-------------|--------|
| ○女性、子供、障害のある人、同和問題、インターネットによる人権侵害等       | ・道理を追究や偏見に気 | ・偏見や差別 |
| ○子供、高齢者、障害のある人等                          | ・科学的・合      | ・科学的・合 |
| ○女性、子供、障害のある人、同和問題、インターネットによる人権侵害等       | ・きまりや正      | ・自分の責任 |
| ○子供、高齢者、障害のある人等                          | ・自然や美し      | ・美しいもの |
| 同和問題、外国人、性同一性障害をはじめとした性的マイノリティ等          | ・存在を        | ・心を身に  |
| ○女性、子供、障害のある人、外国人、性同一性障害をはじめとした性的マイノリティ等 | ・コミュニケー     | ・偏見や差別 |
| ○女性、子供、障害のある人、外国人                        | ・身の周りの      | ・身の周りの |

各教科・領域における人権教育上の視点

| 教科 | 人権教育上の視点  |
|----|---|
| 国語 | 育てたい資質や能力<br>A 自他の大切さを認める<br>I 互いに高め合う<br>①差別偏見の解消<br>②科学的な見方・考え方<br>③自立意識<br>④豊かな感性・敬虔<br>⑤自己尊重の感情<br>⑥公平・公正<br>⑦同和問題の理解<br>⑧コミュニケーション能力<br>⑨権力と責任<br>⑩参加・参画 |
| 道徳 | ・文学教材を通して豊かな精神や感性を育てるとともに、自他の人間性を大切にし、よき心身を育てる。<br>・読解力や文章を通して、精神的なものの見方や考え方を育て、偏見・不寛容・仲間意識をなくしていく。<br>・表現活動を通して、自分の思いや意見を表現できるようにする。                         |
| 社会 | ・人々が社会の構成員として、平等に権利、責任を認め、支え合っている社会生活を送ることを理解できるようにする。<br>・「国語」社会生活の視座としての「人権教育」の視点。  |